余市町立登小学校

沿革

本校は、余市町の南東に位置し、明治３８年９月１日、大川尋常小学校分教場として開校、その間1，332名の卒業生を送り出し、今年で120年目を迎える歴史と伝統のある学校です。

校門のすぐ左手にある由緒ある大松（みかげの松）が大切に植えられています。沿革誌には、『大正４年５月大正天皇即位記念木として、赤松１本移植』とあり、110年もの長きにわたり学校・地域のシンボルとして子どもたちを見守ってきています。

児童数は現在16名と少ないのですが、明るく素直で礼儀正しく、伸び伸びと学校生活を送っています。自ら学ぶ力をつけるために、学習指導はもとより、体験・集会活動等を通して積極性や表現力等の向上を目指しています。校舎は、平成６年に建て替えられ、三つの教室はオープンスペースで、教室の前が多目的ホールとなっており、全校給食・集会活動・児童会活動など学級や全校の活動の場として毎日大いに活用しています。地域と共にある学校、地域に守られた学校、地域に育てられた子どもたちは順調に成長しています。

「登地区は、農作物も良く育ちますが、何より人を育てます。」

学校教育目標

よく学び　よく遊べ　～校訓～

心豊かな子

自然や命を大切にし、明るく礼儀正しい子

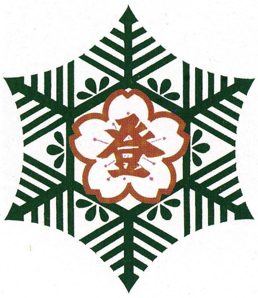
考える子

よく考え、豊かに表現できる子

元気な子

進んで運動するたくましい子

校章



本校は山間の雪の多い地帯にあることから，学校の象徴とも言える大松の枝と葉で雪の結晶を模して，自然の中でたくましく成長していく子どもたちの姿を表している。

また，中心には，主要産物であるリンゴの花弁を配して，春を待つ人々の心と，学校，子ども，そして地域の隆運，発展を願う気持ちを表現したのである。

（昭和10年9月1日　制定）

校歌

制定　昭和四十年九月一日
作詞　登小学校
作曲　三宅　英八郎

一
見はるかす　綿津海のぞみ
せせらぎの　音も清らに
花の香の　ほのかに匂い
紅いの玉　なすところ
高らかに　我等讃えん

二
霞立つ　山にいだかれ
樹々わたる　風さわやかに
大松の　ともに年経て
学舎の　千代の栄えを
永遠に　我等誇らん

三
つぶらなる　瞳集いて
遥かなる　望み高らに
真理の峰　仰ぎみて
誠なる　道究めつつ
大らかに　我等歩まん

児童数

１年生　４名　２年生　３名　３年生　４名
４年生　３名　６年生　８名
計　２２名

職員数

１３名（校長、教諭、養護教諭、校務補、給食調理員、教育支援員）